

〔師贊記〕文化五年二月廿七日癸巳、春日社正遷宮ニ付、今朝卯刻調進物、黃端半疊六枚、葉薦百八枚、包ニ致、宰領令發足畢、

〔仁孝天皇御即位記〕御即位調進物御下行

掃部寮中

同米壹石六斗擬侍從、緣ふち、小半疊四帖、同壹石六斗威儀命婦座、緣半疊二帖、同三石二斗御後命婦座、同疊二帖

〔運歩色葉集字〕薄緣薄疊

〔倭訓栞前編四〕うすだ、み、大嘗會式に薄疊とみゆ、又うすべりといふ、薄緣の義、三議一統に見えたり、古へのた、みは是成べし、韓子に禹王蔣席を作り、顧縁すと見えたれば、縁の飾を加へたる始め成べしといへり、涼簟といふも是なり、

〔松屋筆記三十八〕薄疊并ウスベリといふ敷物

今の世うすべりといふは、いにしへの薄疊也、今のタ、ミは、いにしへ厚疊ウツダといへり、

〔和長卿記〕明應九年十二月十一日辛卯、今夜倚廬渡御也、後柏原、此年九月二十日御父後土御門崩、武家用脚依遲々也、中御帳東面敷薄疊三帖爲常御座縁同上

〔國師日記〕一同十二月寛永六年十月、松平長門殿略、九月廿四日狀來ル、爲御成之御祝儀、銀子貳拾枚、薄端略、百枚來ル也、中

一同十九日、松平長門殿へ返書遣ス、銀子廿枚、薄緣略、百枚之禮も申遣ス、下

〔毛吹草三〕攝津 疊ウスベリ、薄緣國ニ行、相物、諸

〔壬生家記〕掃部頭記

貞享度神座設様南枕

一 白布緣疊 一枚